

平成28年3月10日(木)  
13:40~16:00  
品川区立小中一貫校伊藤学園

### 1 出席者

環境教育委員長	岩崎 守也 (八王子市立南大沢中学校長)		
副委員長	遠藤 淳 (府中市立府中第六中学校長、北中理委員長)		
役員	坂内 温実 (品川区立小中一貫校伊藤学園指導教諭)		
役員	黒田 俊一 (墨田区立両国中学校教諭)		
東京都教職員研修センター指導主事	細川 智佳子		
国立科学博物館	岩崎 誠司		
大田区立東調布中学校	田中 孝志	大田区立雪谷中学校	足立 敏暢
葛飾区立一之台中学校	河野 晃	文京区立第十中学校	佐藤 友里子
葛飾区立大道中学校	寺嶋 聡	府中市立府中第七中学校	伊能 正行
大田区立六郷中学校	星野 真由美	世田谷区立八幡中学校	井上 登志子
大田区立南六郷中学校	山村 寿徳	目黒区立第十中学校	遠田 次郎

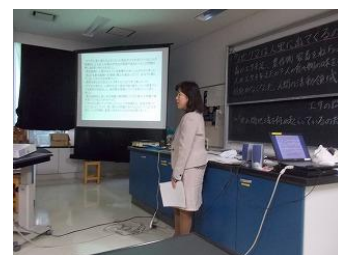
敬称略

### 2 研究授業

内容:「ツキノワグマを教材とした人間と野生動物との共存」

授業者:品川区立小中一貫校伊藤学園指導教諭 坂内 温実

- ・ツキノワグマが人里に出てきたのは、エサの問題だけだろうか。
- ・資料から1999年以降はそれ以前に比べて、凶作の年のツキノワグマの捕獲数が極端に増えていることに気付かせる。
- ・資料2からツキノワグマの分布域が広がっていることに気付かせる。また広がっている分布域が、中山間地域(里山)であることを伝える。
- ・中山間地域(里山)の人口の減少や耕作放棄地の増加から、里山の変化が、ツキノワグマが人里に出てきたことに関係していることに気付かせる。
- ・今日の授業で考えたこと、気付いたことを書かせる。(人間の生活の変化が野生動物の生態にも関係していることに気付いたという生徒からの発表があった)



### 3 研究協議会

#### (1) 平成27年度の環境教育委員会の活動報告

- ・日本の自然環境や生態系の研究資料(東京農工大学の小池伸介先生の研究資料:H26.10の講演会)を元に環境教育の教材を開発している等の報告。

#### (2) 坂内指導教諭の自評

- ・ツキノワグマの主食が鮭などの魚と考えている生徒が多かった。また東京の山中にも生息していることを知らない生徒も多かった。これらのことから1時限目は、ツキノワグマが木の実などの植物性のものを主食していることや森の中に生息していること、繁殖力は高くないことなど、ツキノワグマの生態についての授業を行い、2時限目は、ツキノワグマが人里に出没する理由がエサ不足の問題だけではなく、他にも理由があることを資料から見出し、話し合いをする授業を行った。3時限目は、これまでの学習を踏まえ、共存をテーマにした作文を書く授業となる。本研究においては、教える側もツキノワグマに関する知識が乏しいことから、授業をつくるにあたって常に専門家のアドバイスが不可欠であることが課題と言える。

#### (3) 研究協議会

- ・ツキノワグマが分布を広げた原因が、中山間地域の農家数の減少や耕作放棄地の増加にあることは確かなのか、個体数の増加が原因も考えられるのではないかなど資料についての質問が出た。  
→資料については農工大の小池先生に確認をしながら行った。耕作放棄地にツキノワグマやシカ、イノシシなどが進出していることは確かだが、個体数については調査されていない。
- ・日本の自然環境を使った教材を作ることは大切である。教材として使える資料を見つける必要がある。
- ・この授業では、自然をそのままにすることが、野生動物との共存や、よい自然環境を作ることにはならないことを理解させることがポイントになる。 など活発な協議になりました。